

令和5年度第12回 感染症発生動向調査協議会

令和6年3月27日

月番：大西秀典

1 前月の感染症発生動向について（2024年第6週～9週・2月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 一類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 二類感染症については、結核は今月の報告数は23例で、2019年の同期累計報告数52例、前年の同期累計報告数39例、本年の累計報告数が41例となっており岐阜県下においてはCOVID-19流行後の発生減少が継続している。従来通り基本的には高齢者が多いが、20、30歳台の若年層にも散見され、特に今月は20歳台での発症例が6例と多い。
- ・ 三類感染症については、腸管出血性大腸菌感染症が3例発生報告があり、全例O157であることが確認された。
- ・ 四類感染症については、レジオネラ症が1例報告されている。
- ・ 五類感染症(性感染症以外)については、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症が1例、急性脳炎が3例報告されている。

<定点把握対象疾患>

- ・ 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数が51.3となっておりまだまだ発生数は多いものの、全国推移と同様に岐阜県内でも減少傾向である。
- ・ インフルエンザの定点当たり患者報告数が43.3となっており、まだまだ発生数は多いものの、全国推移と同様に岐阜県内でも減少傾向である。
- ・ RSウイルス感染症は県全体での発生数50例、前月比390.6%と流行の兆しがみられる。
- ・ 咽頭結膜熱は県全体で87例の発生があり、前月比44.8%と全国的な推移と同様に岐阜県内でも減少傾向である。
- ・ A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は県全体で492例の発生があり、全国の推移と比較するとやや少ないものの、前月比140.4%と増加傾向である。
- ・ 感染性胃腸炎は県全体で892例の発生があり、前月比としては109.1%で概ね横ばいの発生数である。
- ・ 基幹定点疾患では目立った調査対象感染症の流行はみられていない。

2 検討すべき課題

(事務局から)

- ・ 県内での麻しん患者の発生報告について

3 情報提供すべき事項

- ・ RSウイルスの流行が拡大傾向となり、岐阜県内の新生児医療施設でシナジス投与が開始になった。例年より大幅に早い対応の開始である。

4 その他（感染症対策推進課から）

- ・ 麻しんの国内外での増加に伴う注意喚起について
- ・ 令和6年度の「風しんの追加的対策」にかかる対応について
- ・ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルスの患者から医療従事者への感染事例について
- ・ 新型コロナウイルス感染症の積極的疫学調査におけるゲノム解析及び変異株 PCR 検査について
- ・ 令和6年度における病原体定点に係る病原体検査の実施について。

<検討結果>